

登山月報

世界ユース選手権	1
第15回JOCジュニアオリンピックカップ	3
平成24年度インターハイ	4
第56回全国高校登山大会報告	
第46回Mountain World	5
「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2012」報告	6
UIAAMedCom meeting 国際山岳連盟医療部会定例会議報告	8
2012年山岳スキー競技国際連盟総会報告	10
JMA、寄贈図書、編集後記	11

IFSC世界ユース選手権

金×1 銀×1 決勝へ9名進出 国別ランキング2位を獲得

日本ユース活躍

2012年のIFSC世界ユース選手権は、シンガポールのセントーサ島で行われた。参加選手は2011年のオーストリアIMST大会に比べると2割くらい少ない約550名。日本からは選手14名が参加。南国特有の高温多湿、天候不順による遅延、さらにはルートの質に悩まされながらも、小田桃花が女子ジュニアで金、田嶋あいかで女子ユースBで銀、さらに9名が決勝に進出する等活躍、IFSCのナショナルチーム・ランキングでも2位を獲得した。

競技に用意された壁は、シンガポールのリゾートアイランドであるセントーサ島のシロソビーチに仮設で立てられた木製の壁。高さは約15m。幅は約20m、6本のルートが同時に進行できる造りになっている。ニスのような木目が目立つ塗料のせいか、壁そのものが濡れているように見えた。

予選1日目；女子ユースBの2番目に登場したオーストリア選手が、ボルト2本目で落ち、会場の雰囲気は凍りつく。南国のビーチが会場のせいか非常にゆるい競技進行であったが、強豪国のボルト2本目落ちを目の当たりにして、多くの選手・コーチが、今回のワールドユースはなにか違う、と感じ始める。その後ほとんどの選手が壁の半分を超えることなく、予選1本目の登りを終える。当初、下部で落ちてしまった選手が感じた「もう終わり



だ。みな自分を超えていくに違いない」という焦りは、進行がすすむにつれ消えていったようだ。なにしろどのカテゴリーでもほとんどの選手があっという間に落ちてしまうのだから。

この日の完登は、全参加者のなか女子ジュニアの小田桃花1人のみ。彼女は先頃のWC/IMST大会で優勝したばかり、ワールドカップの優勝者しか完登できない予選というのは、ワールドユースでは前代未聞。(自分が知る限り、通常20名以上の完登者ができることが多いような印象)

予選2日目；ルートの手直しが行われ、ルートが登りやすく調整された。とは云うものの、今度は「少なくとも(有力選手の)あの到達高度まで登れないとまずい」という違う種類のプレッシャーを感じてしまっている選手が多かった。が、多くの日本人選手は、順位はそこそこでも低高度という昨日のショックから立ち直り、環境にも慣れたせいかよい動きが目立った。もっともプレッシャーのかかった是永は、初日の43位という何とも出遅れた順位から、今日はカテゴリートップの高度に到達し、無事予選通過。しかし初日30位で、予選通過のボーダーライン付近だった坂井は通過できず。日本は14名中13名が予選通過。

この日は、雨で14時30分に競技が中断。なかなか再開できず、結局18時30分に再開。その後照明を使っ



表彰台の小田桃花



小田(左)と田嶋(右)



での進行となる。全カテゴリーの終了は夜の9時過ぎとなった。今回日本チームは、晴れた場合の日除けとスコール対策のために、タープを3張り持参。雨による中断時など雨のかからない居場所がほとんどない今回の会場では大いに役立った。もちろん雨のひどい時には他国関係者にもその場を提供も

した。またホテルも会場から徒歩7分程度だったこともあり、登り終わった選手を適宜部屋に帰らせて休ませることが出来、非常に助かった。

—大会3日目 セミファイナル/ファイナル—

アイソオープンは9時からの予定だが、朝から土砂降り。オフィシャルホテルでは予定が1時間遅れるとの連絡がSMS経由で伝わる。市内からはるばるやってきた選手には気の毒な状況だが、ひたすら部屋で天候の回復を待つ。Webには11時に再度、アナウンスの予定との文字が。Web環境と会場へのアクセスの良さは本当にありがたい。

結局、13時半からアイソがオープンとなる。クローズは14時半。ルールの変更でこれまでと違い、クローズまでの時間にはルートが見放題のため、各国のコーチは選手に登りを指示している。日本チームも当初事情が呑み込めなかったが、さっそくコーチ陣が選手にアドバイスを行う。

15時半、全カテゴリーでセミファイナルが開始される。ルートは、これまでと変わらず、非常に厳しく、多くのカテゴリーでは下部で決着がついていく。非常に早い進行だ。ワールドユース初出場男子ユースAの清水は、トップでセミファイナルを通過。それでもルートの中ほどの高度。どれほど難しいルートなのだろう。女子では小田、田嶋が完登トップ通過。結果は9名が決勝に進出する。参加の6割以上が決勝に残るということはこれまでにない、好成績が期待できるチャンスである。

20時15分決勝が始まる。これまでの大会の流れより決勝も日本人大いに期待できると思ったが、どのカテゴリーも決勝ルートはこれまでの2ルート分の幅を使ったもの。3カテゴリーずつ2グループに分かれて決勝は行われた。壁の幅が増えたことで、セミファイナルまでの非常に厳しいボルダーを積み重ねたような直線的な短いルートではなく、これまでのワールドユースの流れを汲む長めのルートである。今までの

ワールドユースでは日本人が決勝に残る場合は、多くの場合表彰台である3位以内に入賞するケースが多かったので、期待は膨らむ。

疲れなのか、長めのルートに戻ったせい、なかなか良い結果を出す日本人は出てこない。少し沈滞したムードが漂ってきた。そんななか女子ユースBの田嶋がトップの高度を獲得する。が、最後のオーストリアの、ハンナも同高度。カウントバックで予選1本目の差で優勝を逃すことになった。ちなみに予選同高度であったとしても、登るスピードは明らかにオーストリアのほうが早く、時間勝負になっても勝ち目はなかった。ハンナは、ヤコブ・シューベルトの妹。

決勝2組目には、最後に小田が登場。完登こそできなかったが、終了点に迫る登りで、文句なく女子ジュニア優勝を決めた。このときすでに夜11時過ぎであった。

ワールドユースでの金メダル獲得は、2008年シドニー(女子ジュニア野口、女子ユースB小田・当時)以来。大会後に発表される、ナショナルチーム・ランキングにおいて2位!(1位はオーストリア)も日本ユースチームでは、はじめての順位。決して良いとはいえない環境の中で働いたスタッフの疲れが吹き飛ぶ瞬間だった。

(記 小日向徹)

【日本人の成績】

女子ジュニア	1位	小田 桃花
女子ユースB	2位	田嶋あいか
男子ユースA	4位	檜崎 智亜
女子ジュニア	5位	大田 理滄
男子ユースA	6位	清水 裕登
男子ユースB	6位	飯田 譲
女子ユースA	7位	尾上 彩
女子ジュニア	8位	水口 僚
男子ユースB	8位	野村真一郎
男子ユースA	10位	是永敬一郎
女子ユースB	10位	義村 萌
男子ユースB	10位	津守 貴斗
女子ユースB	23位	大植麻亜耶
女子ユースA	33位	坂井 絢音
コーチ	木村伸介、安井博志、西谷善子	
チームマネージャー	小日向徹	

第15回 JOCジュニアオリンピックカップ

8月11日～13日、ユースクライマーの“甲子園”ジュニアオリンピックカップが、今年も富山県南砺市の桜ヶ池クライミングセンターで開催された。今年の参加者は、北は北海道、南は鹿児島から212人。年齢ごとに4つのカテゴリーに分かれ、熱い戦いとなった。

11日・12日は予選。選手は2本の予選ルートに登り、その順位の合計で決勝進出者が決定した。

13日決勝。アンダーユースB(12/13歳クラス)女子では、ユース選手権でも優勝した千葉の菊沢絢が2位を大きく引き離して優勝。女子4カテゴリー全部を合わせても8位という好成績だった。男子は田嶋あいかの弟、瑞貴が抜群の安定したクライミングで予選を通過したが、決勝ではミスが出て2位となった。

ユースB(14/15歳クラス)女子は、1位田嶋あいか、2位義村萌という三重県のワンツーフィニッシュとなった。男子は予選、決勝を通して埼玉の波田悠貴が好調を持続した。

ユースA(16/17歳クラス)女子は、ベテラン尾上彩が手堅く優勝。男子は参加者(45人)も、実力(予選両ルート完登5人)も最高の激戦区。ここに来て、多少身長伸びた“小さな巨人”是永敬一郎が十分に実力を発揮、総合優勝に輝いた。

ジュニア(18/19歳クラス)女子は、ユース選手権でも総合1位だった大田理娑がここでも総合優勝。2位には近江志帆が入り、山口県のワンツーとなった。男子は、ベテラン渡部桂太が僅差ながら1位となり、最後のJOCを優勝で飾った。

(文・北山真、写真・飯山健治)



男子ファイナルの是永



総合優勝の2人
是永(左)と大田(右)

【大会記録】

男子		女子	
男子アンダーユースB		女子アンダーユースB	
1	榑崎 明智(栃木)	1	菊沢 絢(千葉)
2	田嶋 瑞貴(三重)	2	徳永 基希(愛媛)
3	中上 太斗(福岡)	3	倉 奈々子(愛知)
男子ユースB		女子ユースB	
1	波田 悠貴(埼玉)	1	田嶋あいか(三重)
2	蔭谷 康平(山口)	2	義村 萌(三重)
3	野村真一郎(茨城)	3	中村祐香梨(静岡)
男子ユースA		女子ユースA	
1	是永敬一郎(埼玉)	1	尾上 彩(埼玉)
2	榑崎 智亜(栃木)	2	蔭谷 柚佳(山口)
3	島谷 尚季(千葉)	3	坂井 絢音(埼玉)
男子ジュニア		女子ジュニア	
1	渡部 桂太(三重)	1	大田 理娑(山口)
2	原田 雅之(長崎)	2	近江 志帆(山口)
3	竹田 陸人(山口)	3	飯田あづみ(千葉)



平成24年度インターハイ 第56回全国高校登山大会報告

8月7日(火)～11日(土)に新潟県、湯沢町で行なわれたインターハイ。苗場山、平標山そして三国峠を会場にして、全国から男女86校が参加して開催された。選手、監督をはじめ様々なかたちで大会を支える総勢900名の山の仲間が湯沢町に集まった。

開会式では、日山協神崎会長から力強いあいさつ。「自分自身高校時代から山に登ってきた。登山は自分でルールを作り、自分が審判であるスポーツ。根本にあるのはチャレンジ精神とあきらめない気持ち。こんな『生きる力』を育む登山を通して強く成長して行って欲しい。」

幕営地苗場プリンスホテルのスキー場ゲレンデに仮設のトイレや水場を置き4日間を過ごした。平均気温22℃、さわやかな風が吹きとても涼しく夜は半袖シャツ一枚では寒いほど、快適なテント生活ができた。

苗場山コースは、和田小屋から神楽ヶ峰を経て苗場山頂を往復した後、田代スキー場へと下り、全長5481mのドラゴンドラに乗って幕営地へと戻るコース。広大な山頂には高層湿原が点在し、池塘の周辺にはニッコウキスゲが美しく咲いていた。

平標山は「花の百名山」のひとつに数えられる高山植物の宝庫。今年は夏の暑さが遅かったため沢山の美しい花々を見ることができた。また山頂からは上州、上越の山々が遠く見渡せた。

最終日は越後と江戸とを結ぶ交通の要所三国峠をたどるコース。この日は秋を思わせる美しいすじ雲が空に流れるさわやかな一日であった。山を下りた後の解散式では、隊長から3日間の登山行動を頑張ったことをたたえるとともに、自分達を支えてくれた多くの人たちに感謝したいと話があった。班長の胴上げもあり



開会式・神崎会長挨拶

胸が熱くなった。

大会では体力歩行、読図力、テント生活、装備など、登山に必要な知識や体力や技術を中心に審査が行われた。登山競技というとクライミングが優勢となってきた今、こうした安全登山の力や技術を競う大会を行なっているのは高体連登山部だけである。そして何よりも全国に山に登る仲間ができることが素晴らしい。そんな登山大会をこれからももっともっと発展させていきたい。

これからも多くの若者が登山を通して力強く優しい人へと成長して行って欲しい。終わりにこの大会を4年以上前から準備し成功に導いてくれた新潟県高体連、湯沢町実行委員会の方々に感謝の意を表したい。

(記 谷口浩平)

【大会記録】

団体男子 (A隊)		団体女子 (B隊)	
優勝	新潟県中央工業(新潟)	優勝	防府(山口)
第2位	修道(広島)	第2位	富士宮西(静岡)
第3位	下松工業(山口)	第3位	高崎女子(群馬)
第4位	長崎北陽台(長崎)	第4位	就実(岡山)
第5位	城ノ内(徳島)	第5位	城ノ内(徳島)
第6位	白石(宮城)	第6位	幕張総合(千葉)



苗場プリンスホテルでのテント設営審査



平標山コースの登り

第46回 Mountain World

ブルータス、おまえもか！

池田常道

と言ったのはユリウス・カエサルだった。けれども、長年（ローマ史ならぬ）ヒマラヤ登山史に携わってきた立場では、思わずこう言ってみたくなる。「K2よ、おまえもか！」と。

登山家のための山（Mountaineer's Mountain）の称号を授かり、8000m峰のなかでは独自の風格を誇ってきたK2（8611m）が、最近ちょっとおかしいからだ。毎年何百人も登らせるゾロゾロ登山に席卷されてしまったエヴェレストについて、どうこう言うつもりもないが、シェルパや酸素ボンベ、固定ロープを総動員した集団登山がK2にまで蔓延してきたとあれば、誇り高き第2高峰の尊厳は失われたも同然。時代の趨勢とは言え、エヴェレストと一緒にポピュラーな巨峰の仲間入りしてしまったかと、慨嘆するしかない。

ことしのK2は、7月31日のワンチャンスしか頂上攻撃の好機がなかったという。にもかかわらず、この日頂上に立ったのは、1日の登頂者としては過去最高の30人に昇った。これまでの記録は2004年7月27日の19人、次いで07年7月20日と08年8月1日のそれぞれ18人だから、今季の盛況は群を抜いている。その内訳はクライマー14人とネパール・シェルパ16人。その大半はチャン・ダワ・シェルパの率いる「セブンサミット・トレックス」というネパールのエージェン트가編成した公募隊だった。別個に行動していた登山隊あるいは個人は、わずか3隊7人（うちシェルパ2人）に過ぎなかった。

チャン・ダワ隊は、本人を含む14人のシェルパがクライアント9人と共に頂上に立った。このうち2人（スペインのオスカル・カディアチとイランのアジム・ガイチェサズ）が無酸素で、他はすべて酸素使用だった。難所として知られるボトルネックから頂上ピラミッドまで、周到に固定ロープが張られたことは言うまでもない。他の登頂者では、韓国のキム・ミゴンとそのシェルパ、サヌーとプルバが酸素を使ったが、アダム・ビエレッキ（ポーランド）、クリスチャン・シュタングル（オーストリア）、ペーテル・ハモルとパヴェル・ベム（スロバキア）の4人は無酸素だった。

ビエレッキは昨冬のガッシャブルムI峰冬季初登頂者。シュタングルは、7大陸第2高峰登頂をテーマに掲げていたが、ハンス・カマーランダー（イタリア）によって達成されるや7大陸ベストスリー（トリプル・セブンサミット）を目標にしているスピード・クライマーで、K2には過去何度も挑み、一昨年はK2に登ったと嘘をついたことで有名になった曰くつきの人物（1月号本欄参照）。またカディアチはスペインのベテランで、今回が11座目の8000m峰登頂となった。チャン・ダワは昨年のカンチェンジュンガで、シェルパとして初めて14座を完登（通算23人目）したミンマ（ツィリ）の弟でこれが13座目、あとはシシャパンマを残すばかりとなった。

K2登山に酸素ボンベやシェルパ、固定ロープが持ち込まれたのは比較的最近の出来事である。従来のK2登山者は自力でルートを開き、自力で頂上ピラミッドを下りてきた。その自信のない者はボトルネックから先へは進めなかった。しかし、だれかが固定ロープを設置してしまえば、他人がその恩恵にあずかることは拒否できない。まして、酸素を吸った強力なシェルパたちが深い雪をラッセルしてくれるとあれば。

2008年8月1日には20数人が一斉に頂上を攻撃し、18人（うちシェルパ4人）が登頂。しかし、その日の夕方起こったセラック崩壊が下山の遅れた登山者を巻き込み、翌日にかけて10人（うちシェルパ4人）が犠牲になった。2009年から3年間パキスタン側からの登頂者はなく、わずかに昨年、新疆側から4人が頂上に立っただけであった。このように、固定ロープを駆使する公募隊や大人数隊が存在するだけで、登山の様相は大きく変わってしまう。

エヴェレストとちがってお客を呼びにくいK2に毎年公募隊が出現するとはかぎらないが、K2の頂上に立つことの意味が変わりつつあるのはうたがいない。



ボトルネックを登る登山者の列。ポーランド隊撮影

「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山2012」報告

日山協創立50周年記念事業の一環で行われた当ジュニア育成事業も3年目となり、「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山2012」として、8月9日～12日にかけて国立登山研修所との共催、(株)山と渓谷社の協賛、富山県山岳連盟の協力を得て、国立立山青少年自然の家をベースに行われた。

全国9都県、39名(男子18名、女子21名)の子供たち(小1～中3)が参加し、ほぼ計画通りに無事終了した。参加者数としては、今年の29名を上回り、参加者の地域としては昨年とあまり変化はないが、沖縄県からの参加者があった。今年の参加者が15名おり、友達としての交流が広がっているようだった。

日山協からは、神崎会長、内藤副会長、本木顧問他担当常務理事、専門委員等9名及び、参加者養護として茨城県山岳連盟 菊池ヒロ子氏が参加された。登山行動及びクライミング体験では、富山岳連から松本会長他4名の講師に協力をいただいた。

9日午後2時過ぎに自然の家に現地集合で始まった。東京からの参加者は、昨年同様、新宿西口に集合し、バスで参加した。受付後、開校式を行い内藤副会長より、ご挨拶をいただいた。その後、オリエンテーション、班編成を行い、参加者顔合わせの「ポイント探し」ゲームを行った。森内のコースに付けられた巣箱型のポイントに書かれた文字を探すゲームだが、最初は地図上の現在地がわからず苦労したチームもあったが、顔合わせには良いゲームだった。コースには、ミスコース防止の監視を置いたが、監視のいない所で、滑って足を怪我した子が出てしまったことは残念だった。事前に注意すべき場所としていた所であり、反省点である。

夕食後は、フリーセッションで今日の反省や、翌日に備え準備などを行い就寝となったが、部屋で騒ぐなど他の宿泊者からの苦情があった。

2日目(10日)は晴天の中、他の団体と一緒に朝の集いに参加、自己紹介を行った後、朝食。午前中は立山カルデラ砂防博物館見学、午後は登山研修所でのクライミング体験を行った。博物館では、企画展の「氷河と万年雪」を見学し、調査の中心を務めた飯田学芸課長からお話を聞いた。また、熊の生態観察の話や、落ちてくる15000個のピンポン玉の雪崩実験ではボールを体の正面で受け止め、雪崩のすごさを体感した。体感する実験は、子供達にとって、非常に印象の残っ

たようであった。その後、博物館内見学を行った。

博物館の見学後、登山研修所へ移動し、昼食をとった。作りたてのカレーは、ことのほか好評だった。昼食後、恒例のクライミング体験を行った。初めて体験する子や普段クライミングをしている子など、登れるまで挑戦しレベルに合わせたクライミングを楽しんだ。

その後、少年自然の家へ移動し、「家へのたより」として、立山の絵葉書に思い思いのメッセージを書いた。

夕食後は、登山の班分けを行った。当初予定された浄土山のBコースは、希望者が少なく、年齢等を考慮し、立山登山(Aコース)と室堂平から天狗平の自然観察(Cコース)の2コースに変更した。明日の登山、登山研修所への宿舎移動に備えて荷物の準備、整理をし、明日の天気を期待して就寝。

3日目(11日)は、いよいよ立山登山である。天気は晴れだが雨の登山行動にはならぬよう願った。バスで室堂に向かう途中では、立山杉の巨木や車窓から弥陀ヶ原、天狗平、時折顔を覗かせる劔岳の景色に見入っていた。

室堂到着後、A(雄山、大汝山)2班、C(室堂平～天狗平)1班の各コースに別れた。

Aコースは2班に分かれ、それぞれ富山岳連の永山さん、黒崎さんをリーダーに班別の登山を行った。9時20分室堂から一ノ越は特に問題もなく進んだが、一ノ越を過ぎるあたりから雨が降り始め、雨具をつけ登山。他の登山者も多く、下山者との交差などで止まりながら雄山頂上着。途中二ノ越付近で山頂をあきらめ下山の子もいたが、天気も良くないため大汝山をやめ、雨を避けながら昼食をとった。雨中の他の登山者





との数珠繋ぎの下山は、一ノ越までは立ち止まりながらの下山で、時間がかかった。Aコースは2班とも15時には室堂に着いた。3回目の今年も雨の登山となった。昨日の天気がうらやまれる。決められた計画での行動ではあるが、3000mの登山では計画の柔軟性が課題と思われる。

Cコースは小1、2の7人と小3から中3までの12名が参加。9時30分、室堂を出発し、日本最古の山小屋室堂山荘～みくりが池～みどりが池～展望台より地獄谷見学、1回目の昼食後、雨のため雨具を着用して室堂着。休憩後(2回目の昼食)12時に出発し天狗平へ進み13時20分到着、バスに乗車し、14時、室堂に戻った。バスに酔って元気が無い子どもが3人いたが、歩き出すとじきに皆元気になり、立山の雄大な景色や咲き乱れる高山植物に感激しながら佐伯さんの案内で、ゆっくり観察しながら歩いた。寒いので全員、手袋や上着を着用した。「チングルマ」「ウサギギク」の名前はすぐ覚えてもらった。「あの葉っぱは何?」の質問に「コバイケイソウ」と答えると「毒があるから熊は食べないんだよね」としっかり昨日の話を覚えていたようで嬉しかった。雨が少し激しくなったので室堂で昼食を採りながら休み、雨具を上下つけて天

狗平に向かった。お花畑の中、皆「気持ちいいね」と楽しく歩いた。途中で雨も上がり剋岳も顔を出して大喜び。雪遊びの出来る雪渓が近くになかったのが残念。

下界は山の天気と違い暖かさもあり、子供達もほっとしたようだった。下山後、宿舎となる登山研修所で入浴後、立山青少年自然の家へ移動し、夕食。夕食後は神崎会長も参加され、キャンプファイヤーを行った。初日に班別の出し物の準備をするよう言っていたが、昨年と異なり、今年は積極的にゲームなど手を挙げる積極性が出て、十分な道具のない中でも子供達も打ち解けあいよい雰囲気だった。登山研修所に戻り、フリーセッションで登山行動の報告などを行った。子供たちにとって今日の体験は印象に残るものだったようだ。

最終日(12日)、閉校式では日山協 内藤副会長の挨拶、西内常務理事からの講評の後、内藤副会長より一人一人に修了証が手渡された。最後の予定である称名の滝見学を時間の都合で、カモシカ園の見学に変更し、その後、立山駅で解散し、全プログラムを終了した。

今回3回目のジュニア登山教室は、いわゆるリピーターが15名おり、昨年同様前回の友達と一緒に参加した子もいた。友達の輪が広がっているようであった。

期間中、自分から怪我をした仲間(上級生)の世話を引き受けた子がいた。このことは、その子の資質によるところもあるが、初めて顔を合わせた学校と違った自然の中での団体活動を通じ、助け合い、思いやり、仲間意識など、普段なかなか経験の出来ない多くのことを学ぶ良い機会と考えているこの登山教室の目的も果たせているのではないかと感じている。ぜひ、多くの子供たちに経験してもらいたいと思っている。参加者からは来年も参加したいという声もあり、この事業を拡大し参加者を増やしたいが、運営上制限もあるため、各岳連(協会)が地域にあった方法で、少しずつでも子供たちを育成できたらと考えている。

(文責：普及委員会 仙石富英)

平成24年度海外登山奨励金申請締切り迫る!

「海外登山奨励金」制度は、登山の成果を顕彰する賞ではありません。斬新且つ意欲的な登山計画に対して奨励金を交付し、実現の手助けをする事を目的にします。総額100万円。1隊の最高限度額は40万円。2013年3月～2014年2月の登山隊が対象。

平成24年度日本山岳グランプリ応募締切り迫る!

「日本山岳グランプリ」は登山に関する顕著な業績に対して贈られる顕彰制度です。賞状と副賞(10万円)。※締切りは、どちらも11月30日です。※要項、申請用紙は本協会HPからダウンロードして下さい。http://www.jma-sangaku.or.jp

伝統文化の「雷龍の国」に女神の山を訪ねる

ブータンの聖峰チョモラリB.C.トレッキング 12日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡

出発日 10/18(木)・11/1(木)・11/15(木)・4/2(火)・4/12(金)・4/20(土)

旅行代金 ¥486,000～¥492,000

※燃油サーチャージ(2012年7月20日現在:目安約16,000円)が別途必要です。

観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ●ボンド保証会員
ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

全国の高校生クライマーよ集まれ!

12/22 (予選) 12/23 (準決勝・決勝)

第3回全国高等学校選抜
クライミング選手権大会実施要項

会場：埼玉県加須市民体育館（埼玉県加須市下三保 590）
期日：平成 24 年 12 月 22 日（土）～ 23 日（日）
主催：（社）日本山岳協会・（公財）全国高等学校体育連盟・加須市・加須市教育委員会
後援：文部科学省・（公財）日本体育協会・埼玉県教育委員会・埼玉県高等学校体育連盟・
（公財）埼玉県体育協会・加須市体育協会
主管：埼玉県山岳連盟・（公財）全国高等学校体育連盟登山専門部
事務局：（社）日本山岳協会
〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館 TEL 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395
Mail:info@jma-sangaku.or.jp URL http://www.jma-sangaku.or.jp

【申込方法】①申し込みは、所定の用紙を（社）日本山岳協会のホームページよりダウンロードし作成すること。
②申込先 〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西 2 丁目 8-1 埼玉県立与野高等学校内
第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会事務局 担当 大石智章
TEL 048-852-4505 FAX 048-840-1046 Email t.oishi@yono-h.spec.ed.jp
③申込締め切り 平成 24 年 11 月 22 日（木）必着（厳守のこと）
④参加料 3,500 円（1 人）
⑤納入方法 12 月 7 日（金）までに下記郵便振替口座に入金すること。
郵便振替口座番号：00110-5-546693 加入者名：（社）日本山岳協会

UIAAMedCom meeting 国際山岳連盟医療部会定例会議報告

7 月 18 日にカナダ・ウイスラーで行なわれた会議に出席しました。「メデイコムミーティング」で話を通じることもあります。正確にはタイトルの通りです。この会議は日本山岳協会の上部組織「国際山岳連盟」(UIAA) の一部門である医療部会 (Medical C ommission) が年一回開催するもので、この医療部会の下部組織にあたる加盟国の山岳連盟医事関係者が出席します。日本の場合、日本山岳協会医科学委員会から常任委員が出席しています。この役割は「連絡員」「派遣役員」などと呼ばれており、日本山岳協会から UIAA に推薦の形で登録され任期は 4 年です。堀井は 2009 年に前任の中島道郎先生から引継ぎ、ネパール・カトマンズ (2009)、ペルー・アレキパ (2010)、スウェーデン・オーレ (2011)、そして今回カナダ・ウイスラーでの出席です。この医療部会には委員長、副委員長が決められているだけで、難しい決まりはなく、情報提供や問題提起があればそれに対してメイリングリストで意見を述べ合うことが基本です。2009 年はネパールの登山医学会の前日に、2010 年は国際登山医学会 ISMM (International Society for Mountain Medicine) 開催 3 日目に、2011 年は国際山岳救助連絡協議会 IKAR (International Commission for Alpine Rescue) 総会及び学術集会の最終日に、そして今年の世界野生医学会学術集会 (World Congress on Wilderness Medicine) 会期終了の翌日というように、開催日を高所医学関連の国際学会開催に合わせて決めることにしています。



2011 年に Dr. Basnyat から委員長を引き継いだ Dr. Hillebrandt (2011 年度まで副委員長) は昨年 12 月から会議に備えて議題を決め、それぞれについて論点を挙げて委員の意見を求め適切にまとめるという作業を精力的に進めていきました。会議は 7 月 18 日ウイスラーの Westin Hotel 2 階会議室にて 9 時から 13 時までおこなわれ、出席者は例年より少なく、Buddha Basnyat (ネパール)、George Rodway (アメリカ)、Bruno Durrer (スイス)、Thomas Kupper (ドイツ)、John McCall (カナダ)、Urs Hefti (スイス)、Heleen Meijer (オランダ)、Henrick Hedelin (スウェーデン)、Dave Watson (IKAR, カナダ)、久々の出席となった先達、中島道郎先生、テーマ「非コーカサス人種と高所」に関する研究結果をプレゼンテーションするために出席された松林公蔵、奥宮清人両先生そして堀井の 13 名です。

今回の主な議題内容について報告します。

(1) カントリーレポート、認定山岳医制度 DiMM (Diploma in Mountain Medicine)

あいにく委員長が都合で欠席となったため、前委員長である Buddha Basnyat が進行を、George Rodway 副委員長 が書記を務めました。出席者の確認・簡単な自己紹介の後、恒例のカントリーレポート(自国のこの一年の登山医学や登山のトピックスの報告)の紹介がありました。アメリカからは UIAA/IKAR の 3 つの DiMM プログラムが認可されたこと、WMS の DiMM は本年 2 月にスタートしたことが伝えられました。スイスからも同じく認定医について報告され順調に進行していること、およびネパールへの支援も計画通り進んでいるというものでした。オランダからは医師が登山者にダイアモックスなどを処方することの問題点が提起されました。私は第 32 回日本登山医学会が「登山医学を登山者に還元する」のテーマのもとに開催されたこと、国際認定山岳医受講者が 100 人を超えたこと、73 歳という女性世界最高齢でエベレスト登頂を果たした日本人女性の紹介などをレポートしました。カナダからは最初の DiMM コースが 9 月に始まること、スウェーデンはスカンジナビアの DiMM とスカンジナビアの新しいスタイルの野生医学会が検討されているという報告です。ドイツからはアーヘン工科大学の学生が医歯学遠征隊というグループを結成して系統的なトレーニング技術を確立するために戸外活動医学を学んでいるとの報告がありました。ネパールの報告は昨年 DiMM をスタートさせたところ、受講者 16 名中 8 名が外国人であったというものです。

以上のように各国とも大きな関心事となっている認定山岳医制度については、UIAA としてプログラム申請の料金を決める、あるいは申請を認可したという UIAA/IKAR のスタンプを作成するといった議論がおこなわれ、担当者を決めました。また、UIAA/IKAR の Diploma ワーキンググループのメンバーに George Rodway 副委員長が推薦されました。

(2) アドバイスペーパー

1. UIAA 医療部会ではひろく登山者への情報提供・提言をおこなってきました。中島先生のご尽力と提言の邦訳作業に手を挙げていただいた医師の皆様のご協力によるその日本語訳を日本登山医学会や日本山岳協会のホームページでご覧になった方も多と思います。これら論文のうち 2008 年から 2009 年に書かれたものの 8 篇について、夫々を最新の知見も加えて update のものにしようとする作業が論文の主たる執筆者を中心に e-mail でおこなわれてきました。したがって会議では確認のみおこない、新たな議論はあり

ませんでした(後日、改訂版が送られてきましたら何らかの方法で紹介したいと思います)。

改訂されたペーパーは、「既存疾患のある人の登山」の心血管系疾患、「旅行者下痢症」、「商業登山・ツアー会社の選択」、「高山病の現場での処置」、「可搬式高圧治療袋」、「水の消毒」、「低圧環境における作業」などです。http://www.theuiaa.org/medical_advice.html
2. drug use/misuse in the mountains

この問題は今回の大きな課題であるとおもっています。UIAA は 2007 年に登山の酸素使用について声明書を出していますが、これが何故か医師が書いたものではなかったということもあるのかもしれませんが、薬剤の使用にかかわる医学と倫理の問題に向き合う事を医療部会 は避けてきました。しかし、昨年取り組む事が決まり、小委員会が立ち上がり、堀井もこのメンバーの一人となっています。高所医学の観点から WADA (World Anti-Doping Agency) が禁止物質とした薬剤、例えば麻酔薬は高難度のクライミングの際に恐怖心に打撃つ役をはたしてくれます。しかし誤った使い方は倫理的な問題とは無関係に高所では呼吸を抑制する、反応に遅延をきたすといった現象をおこし、事故のリスクを高めてしまいます。

登山者によく知られているアセタゾラミドが禁止薬となっている理由はその利尿効果のためにドーピング検査を受けたときにカモフラージュされてしまうことによっています。しかし救助目的などで急速に高度を上げる必要がある場合、高所にある空港に平地から一気に上がる場合などに適切に使えば急性高山病の発症を避ける事が出来ますが、高所では正しい判断に基づかない使い方—例えば糖尿病の人に一律に投与すると危険な状態に陥ることがあることを理解していなければなりません。この論文がアドバイスペーパーとして発表されましたら改めて紹介したいと思います。

3. 今後発表予定のアドバイスペーパーについて

衛生学・公衆衛生学：Hamid Mosaedian、高所における呼吸器疾患、糖尿病：D. Hillebrandt

4. 「Non Caucasians and High Altitude」

「非コーカサス人種と高所」というこのテーマは、2009年カトマンズの会議の際、アドバイスパーパーの議論に続いてBasnyat 委員長から堀井に振られたものです。初めての出席でテーマを貰い、意図が分からないながら持ち帰って医科学委員会で相談しました。そしてフィールドワークを専らとしておられる松林先生にお願いすることになりました。昨年論文が発表されたので、Basnyat 委員長、Hillebrandt 副委員長に送り、本年春に2篇目も同様に送り、ウイスラーの会議で著者がプレゼンテーションする機会をつくって欲しいとお願いしました。と言いますのは、内容的には高所順化の民族による違いをレビューしたもので、い

わゆるアドバイスパーパーとは異なるものであるからです。以上の経緯で、松林先生には会議で発表していただいた結果、UIAAのウェブサイトにおいて議論できるようにするということになりました。

(3) UIAA MedCom 連絡員について

アフリカ：John McCallが東アフリカのIan Allenに連絡

フランス：Piotr Konczakowskiが連絡

ポーランド：Thomas Kupperが連絡

UIAAのファイルにDropboxを導入する件についてはHeleen Meijerが検討することとなった。

(4) 次回会議予定

2013年6月28日スイス(Urs) またはドイツ(Thomas)。2014年はイタリアBolzanoでISMM meetingとドッキング。

(医科学委員会 堀井昌子)

2012年 山岳スキー競技国際連盟総会報告

6月23日イタリア北部の冬期オリンピック開催都市トリノでISMF(国際山岳スキー競技連盟)総会が開かれた。昨年会長がスペインのルイス・ロベスからイタリアのアンドレ・マリオッタ氏に代わり、競技委員長、スポーツディレクターも代わりまた副会長・常任理事も一新され新体制となった。イタリア勢が中心となって初めての総会であり、体制は動き出したばかりで少しぎくしゃくしている感じもある。前会長ロベスが執行部に残り、事業継続性を担保することになったのは安心材料である。現在加盟国は31カ国、今回の総会出席は15、委任4であった。アジアからは中国は出席せず韓国も代表者ヨー氏は参加せず、アジア勢の影は薄かった。

昨シーズン、ワールドカップ戦5大会、ヨーロッパ、北米、南米、アジアで大陸選手権大会(韓国)が実施されたほか、公認レースは梅池大会を含め世界で合計7大会、参加選手は延べ2919人であった。

問題は、国際選手登録数の減少傾向でこれまで一番多かった2009年は319であったが2011年の12シーズンは220であった。世界選手権大会参加国も2006年は31カ国であったが2010年は23カ国、2011年は21カ国とやや減少傾向にある。

スポンサー獲得などもまだまだ発展途上で大口が取れていない。ただ用具メーカーの組織化は比較的うまくいっており定期的な業界と会合がもたれ安全基準改正などについて話し合われている。

レース基準の厳格化でレース企画が難しくなった、との意見がでた。ヨーロッパ各地の伝統的なレースや、それぞれの山域でレース設計が大きく異なることから、レースの企画標準化は限界があるのは理解できる。大自然の中での競技を世界競技としての標準化することの難しさは永遠の課題である。また、アルプス周辺の強豪国と選手レベルがそこまで行かない国々との温度差が表面化した。

いろいろな議論が出たが、競技普及「途上国」がネット上にフォーラムを作って情報交換、共同のセミナー企画などのアイデアが現実化することになった。アジア、北米の地域団体もそうした動きに連動するようになるであろう。IOC幹部がヨーロッパ選手権大会の視察に訪れ、さらに競技のオリンピック競技化申請書類準備にアドバイスしてくれている、との報告があった。



アジア関連ではロシアから代表が出席し、カムチャッカでの大会企画をプレゼンテーションした。ロシア代表は「カムチャッカはアジアに属するので大会はアジア各国の選手を招待したいとのこと。期日は樺池の大会をみすえ、その翌週4月第2週とするようだが、来年は世界選手権もあり日本から何人の参加希望

者がでるか若干疑問はある。ただ場所が魅力的なので選手を募ってみたい。

競技普及、プロモーション、スポンサー獲得等課題は多いが、ヨーロッパでの競技人口をみるとまだまだポテンシャルは大きいし、オリンピック競技化への努力は継続したい。
(記 笹生博夫)



平成24年度8月(24年8月)常務理事会報告

日時 平成24年8月6日(月)

18:00~20:25

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長、内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、高山、水島、相良、永井各常務理事

委任 佐藤、石倉、北山、寺内、谷口、堀井常務理事
(18名中12名出席)

1.専門委員会動静

7月常務理事会以降
(7月13日~8月5日)

[報告]

(1)自然保護委員会

7月17日(火) 出席者14名

ア 6月常任委員会議事録の確認
イ 山岳団体自然環境連絡会報告
ウ コカ・コーラ、クリーンハイクについて

・石鎚山:7/25に実施
・第3回は富士山を中止し、丹沢で8月末に計画

・赤城山、雲取山は検討中
エ 「山はみんなの宝」憲章への賛同について

・呼びかけ人会議の報告

オ 第8回「山の博覧会」
(山梨、7/7)について

カ 日本山岳会自然保護全国集会のサポートについて(群馬岳連)

キ 自然保護委員総会(北海道大会)開催要項の検討

ク 常任委員研修会の反省・総括

ケ 自然保護指導員の今後について

(2)競技委員会

7月19日(木) 出席者14名

ア 7月常務理事会報告

イ 国体活性化プロジェクト中間報告について

ウ 全国高校総体登山大会について
・8/7~11、苗場山・平標山、神崎会長、高山常務理事

エ JOCジュニアオリンピックカップについて

・8/11~13、南砺市桜が池cc

オ ルートセッター全国研修会について

・8/14~16、南砺市桜が池cc

カ WC印西2012大会の進捗状況について

・第2回実行委員会報告(7/3)

・千葉岳連打合せ会(7/26)について

・新印西市長の表敬訪問について
キ 全国高等学校選抜クライミング選手権大会について

・加須市長の表敬と第3回実行委員会の開催について(8/20)

ク 後催県の準備状況について

ケ 選手登録に関して

・日本代表選手の日山協選手登録について

・ブロック大会の選手変更に伴う代替選手の日山協登録締切日の明確化について

コ 日山協ルートセッター資格登録の個人申請について

サ 審判員・ルートセッター・競技運営員登録の競技委員会担当者について

(3)遭難対策委員会

寄贈図書

寄贈本	新技術振興渡辺記念会	『よみがえる富士山測候所』土器屋由紀子・佐々木一哉 編著
	東京都山岳連盟	『80歳山はまだ卒業できない』原幸多 著
	日本フリークライミング協会 井上大助	書籍「アウトドア・クライミング」
雑誌	東京新聞出版部	『岳人』9月号
	山と溪谷社	『山と溪谷』9月号
	兵庫県山岳連盟	『兵庫山岳』第542号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	『健康づくり』No.412
	(公社)日本山岳会	『草の目 木の目』第99号
	新潟県山岳協会	『新山協ニュース』第298号
	(公財)全日本ボウリング協会	『JBCnews』第489号
	日本山岳遺産基金	『日本山岳遺産基金ニュース』vol.4
	信州大学山岳科学総合研究所	『山岳科学総合研究所ユースター』2012年8月 第33号
	(公財)日本体育協会	『SPORTS JAPAN』2012.7-8 vol2
	常北山水会	『山水』第38号
	(公財)日本武術太極拳連盟	『武術太極拳』No.274
会報	日本勤労者山岳連盟	『登山時報』No.451
	大韓山岳聯盟	『大山聯』Vol.164
	日本フリークライミング協会 井上大助	『Freefan』2012 #065
	(公社)日本山岳会	『山』No.807
	三峰山岳会	『岩つばめ』No.339
	中国登山協会	『山野』第168期 2012年8月
	東京野歩路山岳会	『山嶺』No.990
	やまびこ山想会	『やまびこ』第143号
	横浜山岳会	『山』2012年9月 963号
	愛知県山岳連盟	『愛知岳連ニュース』第399号
	中国登山協会	『山野』中国戸外2012.04 07
	日本山岳写真協会	『山岳写真協会ニュース』8月号 第390号
	(公財)日本体育協会	『フェアプレイニュース』『スポーツニュース』2012年8月27日号

- 7月24日(火) 出席者6名
- ア 山岳レスキュー講習会について
- ・各コースの講師振り分けについて
 - ・装備購入について
 - ・装備リスト及びt o t oラベル添付写真について
 - ・各岳連の若手発掘について
- イ 平成24年度常任委員について
- ・副委員長2名留任、事務局長を瀬藤(埼玉・新任)
- ウ 日中韓技術交流会について
- ・実施時期の至急確認
- エ レスキュー協議会について
- ・テントフォーラムの実施について(9月末に計画)
 - ・モンベルへの協力依頼中、埼玉で200名規模での開催を予定
- オ ロープテストについて
- ・12/1～2、国立登山研修所で実施予定
 - ・P Cの更新をせずにロードセルの校正を実施
- カ スカイク会議について
- ・会議前は使用できたが、会議時はP Cのロックやスカイクのパスワード確認不足で使用できず
- (4)ジュニア・普及委員会
- 8月2日(木) 出席者6名
- ア 中高年安全登山指導者講習会について
- ・東部地区の募集状況
 - ・西部地区の実施要項
- イ 個人会員、ジュニア関係アンケート調査の集計について
- ウ 第51回全日本登山体育大会について
- ・大会開催要項の発送
- エ ジュニア登山教室 in 立山の準備について
- ・役割分担、参加者の班分け、ほか

2. その他の重要事項

- (7月13日～8月5日)
- [報告]
- (1)「山はみんなの宝」憲章制定賛同呼びかけ人会議 7月13日(金)
於：ニュー新橋ビルB2F「ニュー新ホール」 石倉常務理事、松隈常任委員
- (2)U I A A医事委員会 7月18日(水)～19日(木) 於：カナダ・ウイスラー 堀井常務理事
- (3)九州ブロック大会(沖縄) 7月20日(金)～22日(日)
- (4)北信越ブロック大会(福井) 7月21日(土)～22日(日)
- (5)山岳4団体役員懇談会 7月25日(水) 於：嘉賓(四ツ谷) 神崎会長、八木原、松元副会長、尾形専務理事
- (6)平成24年度全国高等学校総合体育大会総合開会式 7月28日(土) 於：朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター 神崎会長
- (7)北海道ブロック大会 7月28日(土)～29日(日)
- (8)東北ブロック大会(秋田) 7月28日(土)～29日(日)
- (9)関東ブロック大会(東京) 7月28日(土)～29日(日) 於：東久留米市 神崎会長、八木原副会長

3. 議事

- (1)平成24年度7月常務理事会議事録の承認について(1字訂正で承認)
- (2)新公益社団法人における控除対象財産について(提案通り承認)
- (3)公益社団法人移行認定申請書類について(1部訂正で承認)

- (4)平成24年度雪崩災害防止功労者の候補者推薦について(事務局に一任)
- (5)報告事項
- ア 会計月次報告
- イ 那智の滝登攀に関する対応について
- ウ 海外登山奨励金交付登山隊の交付金返戻について
- エ 第7回日本スポーツグランプリ受賞者(渡邊玉枝)について
- オ 中高年安全登山指導者講習会(西部地区)実施要項について
- カ 「オーバーナイトテントフォーラム～安全な登山技術を身に着けよう～」開催について
- キ 平成24年度登攀技術に関する指導員の教育と研修・主任検定員養成講習会・上級指導員養成講習会の開催について
- ク 「登ろう！日本一高い 富士山へ(被災高校生)」後援事業の報告

5. 後援、協賛等の依頼について

なし

編集後記

日本勤労者山岳連盟の個人会員制度「ROUSANパートナーズ」が始まった。技術・学習・安全・安心を標語にホームページから登録やサービスが受けられるシステムの様だ。日山協でも加盟団体の個人会員制度に対する調査を始めた。「いつでも、どこでも、だれも」が安全・安心で、ハイキングや登山が出来る様なシステムや取り組みが、公益社団法人となれば課題のひとつかもしれない

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第522号

定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成24年9月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzasan@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(夜間)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和室「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzasan@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・上野原トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

会々長 杉本憲昭

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、
安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)

詳しくは → www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

東日本大震災復興支援「とどけよう スポーツの力を東北へ!」

IFSCクライミングワールドカップ 2012 INZAI大会

IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2012

Sponsored by HAKKAISAN & MAMMUT

- 期 日** 2012年10月27日(土)～28日(日)
- 会 場** 印西市松山下公園総合体育館 千葉県印西市浦部 275 電話 0476-42-8417
- 主 催** (社)日本山岳協会(JMA)、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)
- 主 管** W-cup 千葉・印西大会 2012 実行委員会
- 後 援** 文部科学省、(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会、千葉県教育委員会、(公財)千葉県体育協会、印西市、印西市教育委員会、印西市体育協会、北総線沿線地域活性化協議会、毎日新聞社
- 特別協賛** 八海醸造(株)、MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN(株)
- 協 賛** 三井住友海上火災保険(株)ほか
- 日 程** [10月26日] 選手受付 [10月27日] 男女予選 [10月28日] 男女準決勝、決勝、表彰式・パーティ
- 参加予定** イタリア、英国、オーストリア、オーストラリア、オランダ、カナダ、韓国、スペイン、スロベニア、スイス、台湾、チェコ、ドイツ、中国、フィンランド、フランス、ベルギー、ロシア他(予定) 約20カ国・地域100名
- 事務局** (社)日本山岳協会 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館 電話:03-3481-2396 FAX:03-3481-2395
メール:info@jma-sangaku.or.jp HP:http://www.jma-sangaku.or.jp/



●大会当日には、JR成田線・木下駅と北総線・千葉ニュータウン中央駅からシャトルバスを運行します。

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

事故が起きたときの保険だけではなく
事故を起こさないための保険へ。
スマートフォン※1を利用されるすべてのひとに
安全運転・事故防止のサポート、スマ保 誕生です。

安全運転アプリ、
GK クルマの保険から。
三井住友海上

スマホでスマ保。



Google Play / App Storeで無料ダウンロード!

◎万がいの瞬間を映像記録する【ドライブレコーダー機能】※2 ◎事故の衝撃を検知し必要な対応をサポート【緊急時ナビ】 ◎あなたの運転傾向を分析&診断する【運転力診断】 ◎ゲーム感覚で運転適性チェック【安全運転チェッカー】 ◎保険をてのひらに【契約内容確認・変更】※3

注:スマ保の操作は運転中は避け、停車中に行ってください。※1 Android OS 2.2以降 iPhone iOS 4.1以降(但しiPhone3Gを除く) ※2 スマートフォンをダッシュボードなどに固定するクレイトル(右写真)が必要です。※3 当社のご契約者に限ります。



魚沼の酒



八海醸造株式会社

〒949-7112 新潟県南魚沼市長森 1051 TEL 025-775-3866

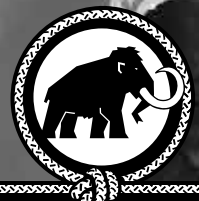
<http://www.hakkaisan.co.jp/>



MAMMUT創立
150周年



Fotos: Robert Bäsch



MAMMUT SPORTS GROUP JAPAN
162-0065 東京都新宿区住吉町2-14 四谷曙橋ビル2F Tel 03 5366 0587
www.mammut.jp

MAMMUT
150 YEARS

IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2012

Sponsored by HAKKAISAN & MAMMUT



10/27
Qualification

- 女子予選 8:30~
- 男子予選 13:00~

10/28
Semi Final & Final

- 男女準決勝 10:30~
- 女子決勝 14:30~
- 男子決勝 15:30~

*時間は変更になる場合があります、最新情報はWEBでご確認ください。

■ チケット：27日 大人1000円 中学生以下500円
28日 大人1500円 中学生以下500円
2日通し券 2000円

*販売券はチケットぴあ、主要クライミングジムで発売されます。

千葉県印西市松山下公園総合体育館
〒270-1367 千葉県印西市浦部275 ☎0476-42-8417

*両日とも千葉ニュータウン中央駅と木下駅からシャトルバスが運行されます。



主催：IFSC、(社)日本山岳協会

後援：文部科学省、(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会
千葉県教育委員会、(公財)千葉県体育協会、毎日新聞社
印西市、印西市教育委員会、印西市体育協会
北総相互総合地域活性化協議会
協力：千葉県山岳協会

協賛：三井住友海上火災保険(株)



協賛：東京アシスト DJ: Jazzy Sport Crew

<http://www.wc-inzai.jp/>